

記しておられる。結論は繁盛の理由は分からないとしているし、その後ウプサラ大学教授となったリンネの講義録や手紙からファン・スウィーテン水を使用したことはあるが、後には他の治療法も行なっているとしていることもあり、評者には大いに疑問がある。(因みに、評者は一九七八年にこの論文からツェンペリーとファン・スウィーテン水を結びつけるヒントを得た。その後ようやくファン・スウィーテン水の処方入手して、吉雄の『紅毛秘事記』中の処方との数値の一致を検証し一九九三年に発表、これを柱にした論文で一九九五年に学位を得た)。

オランダ座敷とオランダ正月については、そこを訪れた人々の印象記や料理の献立を紹介し、この献立を再現した現代の史的再現オランダ正月にも及んで、味わい深い内容となっている。

最後にウプサラへ行つたが見られなかったということがないように、ツェンペリー蒐集の植物標本類は公開(四七頁)されていないことを付記する。事前のアポイントメントと見た標本類を学名で提示することが必要。

(高橋 文)

〔丸善株式会社 東京都中央区日本橋二一三―十、電話〇三―三二二七―一〇五二二、二〇〇〇年一月二十日、新書判、二四四頁、本体七八〇円〕

横田 敏勝 著

『名画の医学』

『名画の医学』は、そのユニークな内容で読者を楽しませるし、同時に非常にためになる書物である。結論的にその理由を三つ挙げておこう。

一、名画、とくにその人物像を觀賞するのに、医学的視点というものがあることを教えてくれる。

二、医学史の知識が豊富になる。

三、現代的な医学上の課題について、最新の研究成果を学ぶことができる。

著者の横田敏勝名誉教授は神経生理学者である。国際疼痛学会副会長を六年もつとめられた経歴がしめすように、その専門領域は痛みである。痛みは臨床的な問題でもあるからであろうが、著者の臨床医学の知識と理解は、平均的な基礎医学者のレベルをはるかに上回るものである。とくに、免疫学、分子生物学、遺伝学などの知見を、縦横にくみ入れた解説を読まれるならば、神経生理学者がよくぞここまでと、読者は驚かれるにちがいない。

著者から読者への呼びかけのことは、「名画を楽しみながら医学を学ぼう」である。まさにそれを可能とするものを著者は提供してくれている。

まず第一部は、日本の『病草紙』(十二世紀後半)より九点を選び、仏教的概念における三苦(老病死)のひとつである「病」

に苦しむ人に観察の眼が向けられる。詞書も適当に引用しながら、この古典的絵画のなかの、白内障、歯周病、多発性硬化症、パーキンソン病、過食肥満症、食中毒、コレラ、痔瘻、半陰陽などを紹介し、それぞれの病気について過去の認識史にふれたあと、現代医学の水準まで読者を案内する。そのあと名画のなかの病者に、八〇〇年の時を逆のぼって対面すると、「あなたの病気の本態はこうなんだよ。今ならこんな治療が受けられるんだよ」と思わず声をかけたくなるのである。

第二部は泰西名画のなかの疾病を語るのだが、人物はかならずしも病いに臥しているとは限らず、一見健康な生活者の身体に、病的徴候を指摘するというものがいくつも選ばれている。また、関連するギリシア・ローマの神話が豊富に引用されているが、この方面での著者の博識は目を見張るものがある。

登場する画家は、ティツィアーノ、ムンク、ルーベンスが各二回、ほかにレオナルド・ダヴィンチ、ヤン・ステーン、ブーシエ、レンブラント、カラバツジョ、リペーラ、ポツティチェリ、ベックリンなどであり、疾患としては、妊娠性甲状腺機能亢進、染色体異常、小人症（軟骨異常養症、単離性成長ホルモン不全症）、家族性高コレステロール血症、肥満症、鉄欠乏性貧血、偏頭痛、乳がん、肝細胞がん、門脈圧亢進症、小児麻痺、痛風、下顎前突症、慢性関節リウマチ、肺結核、性感染症、ペストなど多彩をきわめている。

これらの病気のなかには過去に大量虐殺を演じたペストの

ような歴史的なものから、現在も生活習慣病として個人を苦しめているものまでであるが、前者については文明的な背景が、後者については家系や個人にまつわるエピソードが興味ぶかく語られている。

名画はすべて鮮明であり、現代医学の解説部分にも多くの説明図がつけられ、達意の文章とともに理解を容易なものとしている。

惜しまれるのは、ひとつ古い学術用語が用いられていることである。副腎丸炎は精巣上体炎が正しいのだが、もちろん瑣末に属することで、本書の価値をいささかも減ずるものではない。

ルイ十五世の寵妃ボンパドゥール夫人については、夫人が梅毒をわずらっていたという事実があるので、偏頭痛は、水銀療法の副作用とも考えられないかという質問を著者にしてみたい衝動にかられることから、本書が読者を楽しませるだけのものでなく、医史学的にもチャレンジングな好著であるといえよう。

(友吉 唯夫)

〔南江堂 東京都文京区本郷三一四二一六 電話三八一一七二
三九、一九九九年八月十五日、B5判、一五四頁、本体五〇〇円〕